

# 経済委員会

## 「区画整理見直し」 区域、事業費を半減

(埼玉県飯能市岩沢地区)  
実施日 10月26日

区画整理の長期化が各地で問題になっている。飯能市岩沢北部は94年、南部は96年に事業認可を受けたが「完了まで100年かかる」として都市計画決定を変更。期間も大幅に短縮した。

### 見直し理由

- ① 厳しい財政状況の中、800戸以上の移転は不可能。
- ② 長期間、狭い道路や下水道整備が進まず、住民の生活設計や権利関係が不安定になる。

### 見直し方針

- ① 施工区域を区画整理地区と除外地区に分ける。
- ② 現道を生かし、移転戸数と住民負担を少なくする。
- ③ 都市計画道路の整備と下水道整備を20年間で行う。

### 【変更面積】

岩沢北部 42・2ヘクタール  
↓17・8ヘクタール(6割減)  
岩沢南部 55・4ヘクタール  
↓36・5ヘクタール(4割減)

### 【事業費変更】

岩沢北部 238億円  
↓129億円(5割減)  
岩沢南部 213億円  
↓93億円(6割減)

### 見直し経過

- ① 03年、検討委員会を作り、問題点を抽出。
- ② 07年、有識者会議(5回開催)の見直し提言を受け、地元説明会(4回)。約8割の権利者が賛成。
- ③ 08年、議会が了承。議長、市長が知事に協力要請。
- ④ 09年7月、都市計画決定・事業計画変更を告示。

● 見直しは、仮換地指定され着工したが、事業の進捗率が10%以下のと



▲岩沢地区を現地視察

## 企業誘致施策および 企業支援策等について

(長野県岡谷市)  
実施日 11月4日

羽村市と人口規模があまり変わらない岡谷市の企業誘致および企業支援策について視察した。

戦前、『シルクの岡谷』として世界にその名を馳せ、戦後は時計やカメラなどの精密工業都市として発展。現在は光学・精密機械など多彩な分野で最先端の高度技術を発信している。

100年に一度と言われる世界的な大不況で、家族経営など中小企業の多い岡谷市は非常に厳しい状況である。しかし、工業を重点施策



▲「テクノプラザおかや」にて

として位置付け、一般会計予算196億円のうち、民生費の次に多い31億円を商工費として確保。企業誘致や助成金、融資制度の充実を力に注いでいることに大変驚いた。

羽村市も運転資金や設備資金融資、セミナーへの助成金などの支援を行っているが、岡谷市なみの予算確保は簡単ではない。

視察先は「テクノプラザおかや」という工業振興の拠点施設だった。

多摩地域では、昭島市にオープンした「産業サポートスクエア・TAMA」との連携、また、青梅線沿線地域産業クラスター協議会との連携が非常に重要であることを改めて実感する視察となった。

# 厚生委員会

## 都立小児総合医療センターおよび都立多摩総合医療センター訪問

(東京都府中市武蔵野台)  
実施日 7月29日

「ベッドが満床で空いていない」「ほかの救急患者に対応中で受け入れできない」など様々な事情で救急患者が受け入れられず、救急車がたらい回しにされるといふケースが報道されている。

平成20年に、かかりつけの産婦人科から大きな病院に救急搬送した



▲都立小児総合医療センター・都立多摩総合医療センター

くても受け入れ先が見つからず3日後に亡くなるという悲しい事件があった。東京都内の話である。このような事例と併せて、小児医療体制の充実を望む声も聞いている。

こうした中、府中市に平成22年3月に建設されたばかりの都立病院の調査をしようと全員一致で決めた。

### 調査の目的

① 清瀬小児病院、八王子小児病院、梅ヶ丘病院の3病院を統合した小児総合医療センターの整備内容。

② それぞれの病院が移転することで不安を訴える方もいた中での統合の意義。

③ 小児総合医療センターと多摩総合医療センターの連携の効果。

### 内容

最初に多摩総合医療センター・小児総合医療センターから概要の説明があり、その後、病院内を視察した。多摩総合医療センターと小児総合医療センターは同じ建物内に設置されており、地上11階・地

下1階・免震構造の鉄筋コンクリート造りである。

多摩総合医療センターの病床数が789床、病室数が354室で、多摩地域の都立病院として総合的医療機能を備え、高度・専門医療を提供する。

一方、小児総合医療センターは病床数が561床、病室数が229室で、「こころ」から「からだ」に至る高度・専門医療を提供する。地階の免震構造、屋上には緊急ヘリポートや屋上緑化、新しい医療機器、新生児用と小児用それぞれのドクターカーなど最新の設備を備えていた。また、小児総合医療センター内には、久留米特別支援学校の分室設置などソフト面の充実も確認できた。

その中でも特に全国で唯一の「総合周産期母子医療センター」は充実していた。中央に位置する吹き抜けの玄関の上3階、多摩総合と小児総合のちょうど真ん中に設置されている。多摩総合医療センターで、緊急の母体搬送を受け入れ、母体・胎児集中治療管理室(M-FICU)も9床設備され、産科が治療にあたる。新生児に急を要する時は、



▲病院内を視察

新生児集中治療室(NICU)が24床、継続保育室(GCU)が48床あり、産科と新生児科が連携してハイリスク出産から新生児の管理まで、横断的にケアが行われる体制を整えていた。

### 感想

視察を通し、都が進めた統合のねらいはこの連携医療に特徴があることが分かった。厚生委員会では、今後の西多摩医療圏の充実のため、引き続き医療分野の調査研究を継続していきたい。